

岩手教区報

第316号
 立教182年4月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3番40号
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597

この度、教区長の辞令を頂戴し、引き続き三年間勤めさせて頂くこととなりました。岩手教区管内が心一つにお道の御用の上に勇んでつとめられるよう努力させて頂きたいと存じます。何卒皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

お道は今、「人材育成」と「天理時報の普及活用」を掲げ、活動を推し進めています。岩手教区としては、昨年「いわてユースフォーラム2018」を開催致しました。若年層の育成の上に引き続き力を注ぐことはもちろんですが、働き盛りの中高年層の丹精も、共に考えていかねばなりません。

一方、時報の普及活用については、昨年大会を開催して、一教会3部の増部を掲げてまいりましたが、申し訳ないことに目標には程遠い状況であります。

私の教会も、ようぼくの中では新しい購読者がなかなか見つかりませんでした。そこで、埼玉在住の別席運びの方々に断られるのを覚悟でお願いしたところ、意外にも快諾してくれたのです。すると半月ほどして、「〇〇研修会はどんな内容でどんな人が対象者？」と問い合わせがあり、さらに「岩手の記事を楽しみに見ている」とのことでありました。この



親の声をまっすぐ受けとめて 岩手教区長 加藤 昌弘

人は無理だろうと、自分勝手に限界を決めていたことを反省した次第です。購読者を増やし、道の伸展につなげようとの本部の打ち出しであります。その思いに何とか沿わせて頂けるよう、今一度仕切り直して、つとめさせて頂きたいと思えます。「与える理は一つ、なれど受ける心によって理が変わる」と聞かせて頂きます。親から下さるものは誰にも平等であります。親から受け取る心一つでその守護は変わってきます。また「親の声は種の理」とも教えて頂きます。親の声に、「またか」「そんなこと」と思ってしまうえば、せっかく頂いた種に傷がつかます。傷がついた種からは良い芽が出ません。出ても花が付かず、結局実りもご守護も頂けないのです。

野球では、いくら良いピッチャーでも、受けるキャッチャー次第で変わります。ボールをポロポロ落としたり、後ろに逸らしては、思い通りの打球は出来ません。どんな球も体を張って、しかもいい音を立てて受けるうちに、調子が出てくるのです。何事も神様からのボールとして逸らすことなく、いい音を立ててしっかりと受け取る中に、ますます神様もお勇み下さり、お喜び下さると信じます。

信仰随想
法楽
 前岩手教区長
中田 俊次

祈り

来年7月に迫った東京五輪の主役に厳しい試練である。競泳女子の池江璃花子選手(18歳)が2月12日、白血病の診断を受けたとツイッターで明かした。その驚きと衝撃は全国へ瞬時に広がった。平成29年4月の日本選手権では女子史上初の5冠を達成しているだけに、来る東京五輪では多くの金メダルを期待されている最たるアスリートだ。

池江選手の告白を受け、多くの著名人がメッセージを寄せているが、その中の一人、30年前急性骨髄性白血病を患った俳優の渡辺謙さんは、ツイッターで、「僕も同じ病気を経験しました。何故、今自分が、と絶望感にさいなまれていたのではと思います。今の医学を信じ、自分の生命力を信じ、前を向いて焦らずにしっかりと治療に専念して下さい。祈っています」と激励している。これまでに寄せら

れた応援メッセージは、既に5千通に及ぶという。激励は即ち、回復を願う切実な祈りである。1980年代頃までは不治の病とされていた白血病だが、90年代以降、治療成績が向上している。とはいえ、「治療の辛さは思ったより数百倍、数千倍しんどい」という池江さんの苦痛を知る時、この先、耐え難い病苦を克服する為には、多くの人々の真心の祈りがどれほど大きな力になるか計り知れない。

二代真柱様と昵懇の仲だった、元京都大学総長平沢興先生は、「科学は祈りなりと思っている。よく勉強していない学者は分った事だけでものを綴りたがる。それは一を知って十を知らないからである。例えば今まで病の床に寝ておった人が歩き出したとする。多くの学者はそんなふうそだと言うが、それは可能です。非常に感動を受けた場合、ホルモンなどの内分泌系が変るのです」と述べている。

また、がん患者がいつの間にか治っているという現象を医学では「自然寛解」と呼ぶ。アメリカで自然寛解を経験した患者50人に「何故回復したと思うか」と尋ねたアンケート結果の最も多かった答えは「祈ること」だったという。殊にも信仰者お互いは、祈りの持つ人知を超えた力を信じ、たすけ道を歩みたい。

「ようぼく成人講座」開催報告(3月分)
 気仙31日(日)盛分28名(講師 権谷正一)

新任教会長紹介



宮古港分教会
 (洲本大・三陸支部)
 工藤 裕樹
 昭和53年3月20日生

前任者工藤俊則氏の出直しに伴い、4代会長としてお許しを戴いた(3月26日)。就任奉告祭は3月31日。

行事予定

【4月分】

- 2日 主事会(9時)
- 役員会議(10時)
- 7日 女子青年例会(10時)
- 10日 学生担当委員会例会(19時)
- 11日 教区報編集会議(18時)
- 13日 婦人会例会(10時半)
- 青年会支部リーダーカンファレンス青年会例会(18時)
- 21日 道の教職員の集い役員会
- 28日 学生会 桜まつり(10時)
- 29日 全教一斉ひのきしんデー
 献血ひのきしん 於教務支庁



学生担当委員会

「春の学生おぢばがえり」報告

3月26日から30日にかけて、岩手教区学生会(高野慎司委員長)では、「立教182年春の学生おぢばがえり」に向けてバス団参を行い、学生19人(含現地参加13人)と少年会員1人、担当者3人の合計23人が参加した。

26日17時に教務支庁を出発して、途中乗車の学生と合流しながら、翌27日7時、宿舎の小南部詰所に到着。ほどなく教区長夫妻が来られ、ご挨拶を頂いた。28日の式典で中田表統領先生は、「今回のスロージャーガン『次代を担うようぼくへ』は、皆さん自身が次代を担うとの自覚を持ったようぼくに育つという意味と、育つてほしいという年配者の願いが込められている。素直に教えを信じ、親神様、教祖の思いを求めて、しっかりと役立つようぼくに育つ努力をしてほしい。人間は潜在的に信じる力と陽気ぐらしをする力を持っている。元の親を知り、陽気ぐらしに

向かって務めてほしい」と話された。

期間中、学生達は交歓会やおぢば行事などを通して信仰の喜びを高め、互いの親睦を深めていた。なお、2人が初席を運んだ。29日にはユニバーサルスタジオジャパンで楽しい時間を過ごし、参加者はたくさんの思い出を胸に、30日9時、元気に教務支庁に帰着した。

今回も参加した学生の心の成長を多く感じました。参加者動員の上に最後までお声がけをありがとうございました。



桜まつり【4月28日】

教区学生会では、左記の通り桜まつりを開催します。これは、新年度を迎え、高校1年生をはじめとする新たな学生会員との親睦を図り、ひいては教区につながる学生層の交流を深め、今後の学生会活動の活性化につながることを目的とする行事です。新1年生に限らず、幅広くお声がけご案内下さいますようお願いいたします。

記

日時 4月28日(日) 10時～15時
場所 教務支庁
内容 自己紹介・岩手公園散策・昼食会 等
参加費 無料

支部合併について

この度、宮古・釜石の二支部が合併して、「三陸支部」となりました。

【4月1日付】



祭事部

「祭儀式勉強会」実施さる

祭事部は、3月17日(日)教務支庁を会場に、「第5回祭儀式勉強会」を開催。16人の参加があった。第1回勉強会で重服の着付けをしたが、再度教えてほしいとの要望があったことから、今回は「斎服の着付け」として、重服と浄衣の着付けを行った。

3人1組となって、斎員となる人に2人で着付けする方法を学んだ。また、1人での重服の着かたを知りたいとの声に応えて、鈴木眞理部長の実演にて示された。

斎員をつとめる教会長、また着付けを手伝う婦人方も終始真剣に受講して、有意義な勉強会となった。



青年会

「教区ひのきしんデー」実施報告

教区青年会では、東日本大震災の記憶を風化させないとの想いから継続して行なっている「被災地救援ひのきしん」を、3月10日、陸前高田にて実施。参加者は、OB、婦人会・少年会員を含む21人。



活動内容は、被災した牡蠣小屋の後の解体作業やロープの清掃作業など。そして、仮設住宅にてOB桐山氏によるパンの配布活動。また、同氏経営の店で集まった募金を、被災地で奮闘するお店に支援金として手渡した。活動後、新しく高台に移転された慰霊碑の前にて、震災で亡くなられた方に黙祷を捧げた。

なお、この模様は、『天理時報』3月24日号に掲載された。



献血推進委員会

「教区献血推進研修会」実施報告

― 若者の献血離れが深刻 ―

本年度の研修会は、2月2日(金)10時より、講師に岩手県赤十字血液センター 献血推進課推進一係長乳井和夫・同盛岡地区担当の佐々木達矢両氏を迎え、教区役員並びに支部担当者(盛岡・九戸・奥州)を含む約25名の参加者をえて実施された。

佐々木講師より、輸血の歴史や血液事業現状の説明を受けたのち、「献血で救われたいのち」と題したDVDを視聴した。特に10代から30代の献血者がこの10年で31%も減少しているという深刻な状況の一方、今後輸血を必要とする高齢者はますます増加するとの説明を聞き、ひのきしんの重要性を再認識した。

4月29日の「全教一斉ひのきしんデー」では、教務支庁に献血車を配車頂き、午前中で400ml20本を目標に「献血ひのきしん」を実施予定。ご協力お願いします。